

汚染牧草の一時保管事例⑦ ～宮城県G町～

遮水シートを利用した一時保管

①汚染牧草の保有状況

保有農家数	保有量
10戸	392トン(推定)

②一時保管の概要

実施主体

- ・G町の町単独事業として、町から農協を通じて配布された遮水シートを使用し、各保有農家がロール状牧草の被覆作業を実施。（事業費は町が東電へ賠償請求予定。）

実施期間

- ・平成25年7月から事業開始。12月までに完了予定。

場所

- ・個々の保有農家圃場等

実施方法

- ・遮水シートを敷設した上にロールを積み上げ、上から遮水シートを被覆し、ロープで固定。

費用

- ・約500万円

③保管方法の検討

G町では、汚染牧草の保管に当たり、

- ①雨露等の流入による堆肥化、腐敗の進行
- ②放射線による人的な健康不安
- ③給与牧草の保管空間の圧迫

が問題となっており、地域の農協と連携し、農家段階において各自で取り組める遮水シートを利用した一時保管を検討。

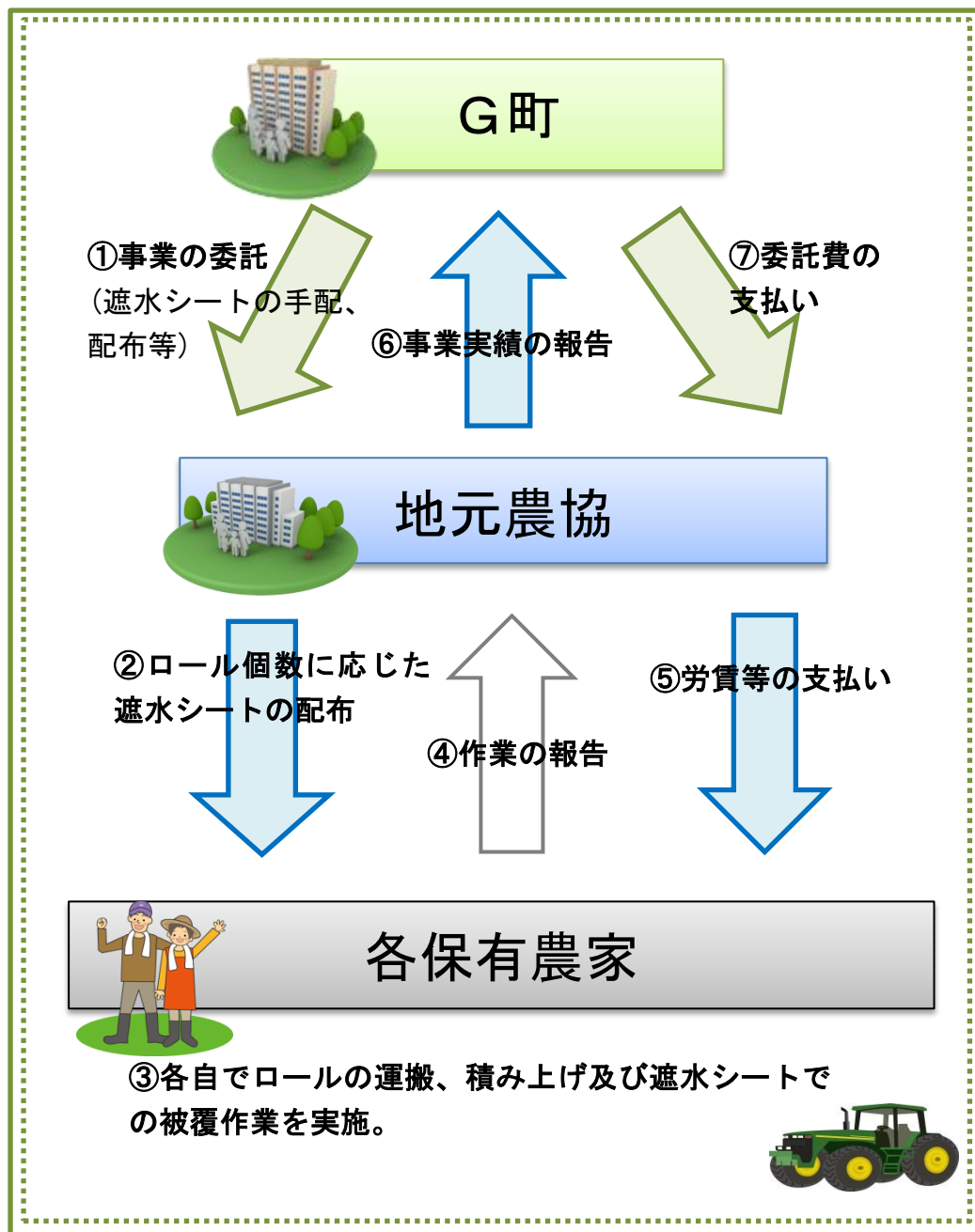
〈ポイント〉

以上の問題点の解決に向け、

- ①耐候性遮水シートの利用
- ②生活圈域及び作業圏域からの隔離
- ③飼料保管庫等からの汚染牧草搬出による給与可能牧草保管スペースの確保により対応。



④ G町の取組



〈取組スケジュール〉

- 25年3月 牧草保有者に対する説明会
- 7月 遮水シートの配布を開始
- ロール状牧草の被覆作業等開始
- 12月 作業完了(予定)